

# くらしのスタジオ

<http://www.cinq-sd.co.jp>

立春を過ぎ、待ち遠しい春がそこまできます。今年には賀状を失礼させていただき、この通信での年明けのご挨拶となりましたことをお許しください。

いただいた賀状の中に、通信ありがとうございます。楽しく読んでいます。“という文面を拝見し、ころがあたたかくなりました。

活字離れが始まって久しいと言われています。そんな中、今年にはくらしのスタジオに建築・インテリアの本を並べ、地域の皆さまがふらりと立ち寄れる“住まスタ”を目指します。



東日本大震災からまもなく丸3年になります。

昨年は被災地に何回か足を運ぶ機会がありました。

あらためて住まいは人が生きるための基本だと痛感させられました。

まだまだ復興再建という言葉には、程遠い現実ではありますが

被災地の皆さんの底力をこころより応援したいと思います。

2014

早春号 (季刊)

Vol.9

もうすぐ4月、新学期を迎えます。

小学1年生の入学を機会に個室をと考えているお宅も多いことと思います。

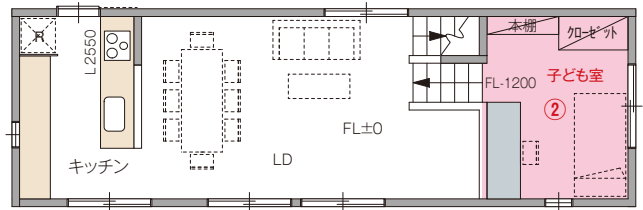
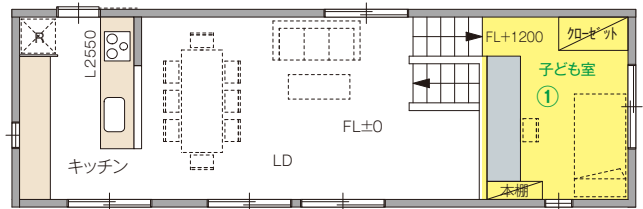
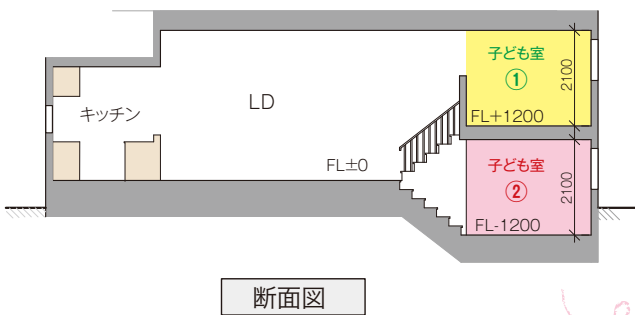
「子どもに個室を与えるのはいつから?」「どこで勉強すると良いのか」「子ども室の間取りの取り方」「広さはどれくらいあれば?」と悩むところ。子どもが小さいときには、何となく親の気配が感

じられるダイニング・リビングのつながりに子ども部屋があると良さそうです。

コミュニケーションや人との距離感をとるのが下手になっていると言われる最近の子どもたち。そんな子どもたちのためにこんな間取りはどうでしょうか。

## 立方体で考える「子ども室」

- ・リビングからつながる半地下を設けてそこを**子ども室①**に。
- ・その上には、リビングの床をベースにスキップに上がっている中2階の**子ども室②**を。
- ・キッチンで家事をしながら子どもたちの様子が見られるので安心です。



## 子どもの創造力を伸ばすインテリア

子ども室のインテリアは子どもの自主性を育てる上で役立ちます。例えば、お片付けのための収納場所はわかりやすく、片づけやすく、色などで使い分けると楽しげです。



外国雑誌にでてくる子ども室は、どれもカラフルで個性的。勉強部屋というよりはワンダーランドの印象です。壁は広いキャンパスに見立て、子どものお絵かきスペースに。

そんな声を反映してか、最近話題となっているのが、壁を黒板にできる黒板塗装と今回のセミナーで紹介する「ウォールステッカー」です。

子ども室は子どもの主張を大切に、子どもの心身の成長にあわせて何回も模様替えができるのが理想的です。

3月のセミナーです。ぜひおいでください♪



### テーマ

「ウォールステッカー」で子ども室を個性的に

今回は、子ども室をつくる際のポイントと創造教育にも役立つようなウォールステッカーを使ったデザインワークを体験します。

\*ウォールステッカーについては「サンクのお勧め商品コーナー」でご紹介しています。

日時：3月1日(土) 14:00 ~ 16:00

場所：サンク

先着：10名

参加費：500円(材料費・お茶代含む)

◎お申込はフリーダイヤルかメールで

# 住まいの哲学

プロデューサーというお仕事柄、コンセプトを決めるのは得意技。住まいに関するコンセプトの結論は「好き」。好きなものを見つけ出す。好きなものにこだわる。そんな一つ一つの積み重ねが自分らしい住まい。妥協しないで、こだわってそんな住まいに仕上げることをこれからもサンクはお手伝いしていきます。

## 第九回「好きと暮らす」

「あなたの住まいの哲学は？」—かつて私自身が尋ねていた質問です。ドイツの家を拝見する番組を制作していたときのこと。一般のお宅ばかりでしたが、どの方も立て板に水のごとく答えてくださったことを思い出します。「自分だったら、まず答えられない！」と感じ入っていたその問いに、今度は自分が答えることになろうとは！因果応報というヤツでしょうか・・・。

昨年4月に16年ぶりの引越しをしました。新しい住まいは、初めて自由にできる「自分だけの住みか」。新築マンションでしたが、いくつか気になる部分があり、サンクにお願いして手を加えることになりました。その過程で、期せずして自分の「好き」を突き詰めていくことになったのです。たとえば、床材。トイレと洗面室は、クッションフロアでした。私はこれがどうしても好きにな

れず、大好きなタイルに替えたいと思いました。厚みがあるため「バリアフリーの室内が台無しになるかも」と忠告されましたが、一日たりとも足を踏み入れずにはすまされない場所で、床を見るたび「あくあ」と溜息をつくことに比べたらと、思い切つて張り替えを決断しました。

そして、玄関。もともとシューズインクロークが備え付けられていたのですが、ここもいじることに。棚を一面外してパイプを通し、玄関に全身が映る鏡を付けてもらいました。その結果、この小部屋に靴から帽子、コートまで収納できるようになり、自然光の入る玄関で、お出かけ前の最終チェックが可能になりました。

いずれも、他の人から見たらお金の無駄遣いかもしれません。問題なく使える新品をわざわざ作り変えるわけですから。でも、私にとっては、日々を快適に暮らす重要なポイントであったことを痛感しています。住み始めて9か月。今も洗面室の床を見るたびにうっとりし、玄関で過ごす快適な時間に顔がほころぶ毎日です。現在は、ベランダライフを充実させるべく、テーブルセットを揃え、緑化を進めています。

ドイツでの取材から10年余り。今、私の住まいは格段に「私らしく」なっている気がします。自分の「好き」を知り、とことん「好き」に囲まれた暮らし、それが私の住まいの哲学と言えるかもしれませぬ。

## サンクの

## お勧めアイテム NO1

## ウォールステッカー

RoomMates (ルームメイツ)



お部屋の模様替えが簡単に楽しめる簡単にも度も貼ってはがせる壁に貼るステッカーです。写真の商品はアメリカの壁紙トップブランド、YorkWall-coverings製。

ウォールステッカーは、壁のアクセントとして使い、キットを組み合わせる自在絵が描けるのが特徴です。アメリカ製なので色、柄も個性的、特に子ども部屋のアクセントとして人気がある商品です。

この商品はサンクのWEBショップでお求めになれます(輸入力なので一般の店頭ではあまり取り扱っていない商品です)

● <http://cinq.shop-pyo.jp>

ウォールステッカーは生産国によってもイメージが違います。北欧・フランス etc.

ウォールステッカー通販専門店サイトをのぞいてみるのも楽しいです。

# 素敵な 9 回 生き方



有限会社マイスター代表取締役

特定非営利活動法人

オーストラリア高齢者サービス研究センター理事長

特定非営利活動法人

ノーマライゼーション推進会議理事

## 遠藤 正巳 さん

ご自分の体験を通じて、誰でもが安心して住みやすい世の中を作るための様々活動をして来られ、障害者の自立のためにあらたな取り組みをはじめた遠藤さんにご登場いただきました。サンクもこの新たな施設の設計に関わらせていただき、これからもっと一緒にこんな仕事ができたらと思っております。

## 私とノーマライゼーション

**私** は昭和28年に生まれました。当時、家族は多くいたが、祖母はリュウマチを患い、寝たきりになってい

た。その祖母の枕元で育った。まだ「介護」という言葉さえなかった時代である。その祖母への介護は、食事から下の世話まで全て母親が担っていた。祖母は77歳で亡くなったが、あの我慢強い母の泣いている姿を何度見たかしかない。

在宅介護の地獄をみていた。今、その母が認知症を患っている。

物忘れが酷い。料理も洗濯も掃除もできない。毎日、デイサービスに通っているが、その穏やかな顔は、幸せそうにも見える。

また、私は吃音という障害を持っていたが、どもることを苦にしたことはなかった。

むしろ虐めや蔑視で苦しんだのが本当だ。どもりは最初の言葉が出てくれない。その間が人を軽蔑や偏見の感情に変える。障害とは何かと問われれば、この偏見や差別こそが障害と言いたい。

私は今も医療環境設備機器のコンサルタントの会社を営んでいる。サラリーマンの時代を含めると35年以上この業界に籍をおいていることになるが、介護や障害の経験がこの活動の原点になっている。

昨年、新たに障害者就労支援事業所を開設、スウェーデンの



スウェーデンの国旗をモチーフにした配色



新しい事業所での作業の様子

福祉施設の在り方を学び生かしたいと思った。そして、様々な人との出会いがあり、準備期間1年を明け、昨年1月に開設した。サンクさんにも改装工事などをお手伝いいただき、明るいガラス張りの楽しい新しい事業所ができた。

就労支援事業の障害者就労移行支援は、一般企業への就労を目指す事業と就労継続B型という一般企業への就労が難しい人に仕事を与え、工賃を払うという事業だ。

障害を持っていても働きたいという意欲と能力のある人が多くいる。その人たちの自立と自己実現を助ける事業である。それが私のライフワークであるノーマライゼーションの実践である。今後この活動を通して多くの人と知り合い、誰もが安心していける社会を作りたいと思っている。

皆さまのご感想、投稿をお待ちしています！



## 生活デザイン設計室 株式会社 サンク 一級建築士事務所

営業時間 / am.9:30~pm7:00 定休日 / 日・祝日

Cinqはフランス語で「5」。私たちは、1984年に女性5人で設立した建築設計、インテリアデザイン事務所です。

### [ 仕事内容 ]

- ・住まいの新築・建て替え ・インテリアコーディネート
- ・戸建て、マンションのリフォーム ・住まいのグリーンインテリア

〒164-0011  
東京都中野区中央5-40-18 キャピトル丸山1階  
Tel / 03-3383-5039 Fax / 03-3384-3462  
E-Mail / info@cinq-sd.co.jp HP / www.cinq-sd.co.jp

お問い合わせはフリーダイヤルで **0120-72-5039**

### ●ギャラリースペースをお貸しします！

サンクのくらしのスタジオの壁面をギャラリースペースとしてお使いになりませんか？  
詳細は、お電話、メールにてお尋ねください。

### ●毎週土曜日に“住まいカフェ”を開催

家のことを色々と考えてみませんか？  
地域の住まいの相談役をお受けしています。  
相談したい方、事前に予約をしていただくとありがたいです。

